

第3回中心市街地 拠点施設整備 基本計画策定委員会 資料 要点

4つの導入機能

滞在型図書館

多世代交流・ワークショップ機能

情報発信機能

カフェ的な空間

図書館専門部会での議論の概要

- ・収容能力としての蔵書数は、現状水準の倍増以上の規模を目指とする。
- ・全体フロア 8,000~9,000 m²

○ハード面

- ・拠点施設内の各施設とのつながりを考慮して配置する。
- ・移動図書館車の発着所に係る可能性を検討する。
- ・ワンフロアの床面積を可能な限り広く確保する。
- ・開架スペースと閲覧スペースは必要かつ十分な広さを確保し、書庫は高収納の自動書庫も活用する。
- ・閲覧向けのイスや学習向けのイスの配置、音環境に配慮して、静かなスペースや会話のスペースを配置するなど、多様な座席空間とする。
- ・図書館内の各階を移動しやすくするために、図書館専用エレベーターを設置する。
- ・拠点施設の1~2階には、開放的な吹き抜け空間にエスカレーターや図書館情報のデジタル(電子)看板を設置するなど、図書館利用につなげる工夫を検討する。
- ・2~3時間などの無料駐車を検討する。
- ・車いすやベビーカーに対応する駐車場を確保する。

○ソフト面

- ・CD・DVD、アーカイブ・データベースを導入し、新たな情報の閲覧に対応する。
- ・スマートフォンなどで閲覧でき、また文字拡大や音声読み上げなどにも対応した電子書籍を導入する。
- ・ICタグを活用し、自動貸出機や自動予約本受取棚、自動書庫などを導入のうえ市民の利便性を高める。
- ・仕事帰りなどに気軽に立ち寄れるようにするため開館時間を延長する。
- ・司書体制の充実を図る。
- ・幅広く豊富な蔵書を活かし市民の読書活動を推進する。
- ・図書館を利用したことのない市民の声も聴き、新たな図書館利用につながるような取り組みを検討する。

今回の議題

I. 4つの導入機能についての基本方針の設定 (p1~2)

- 1 施設全体の方針 について
 - (1) 拠点施設整備の目的
 - (2) 4つの導入機能の設定、機能配置イメージ
- 2 4つの導入機能の基本方針 について
 - (1) ~ (4) 各機能の想定イメージ、基本的な方向、主な方針

II. 施設・空間構成の考え方 (p3~4)

- 1 施設規模・空間構成の検討 について
 - (1) 施設全体の規模
 - (2) 4つの機能の空間構成の考え方と配分イメージ
- 2 魅力的な空間形成の検討 について
 - (1) ランドマークに関する検討
 - (2) 街とのつながりを意識したデザインの検討
 - (3) 建築における検討事項
 - (4) 拠点施設と周辺の公共空間の連携・活用の検討

III. 交通アクセスの検討 (p5~6, p7 全体図)

- 1 駐車場・自転車等駐車場（駐輪場）の検討 について
 - (1) 駐車場需要への対応
 - (2) 自転車等駐車場（駐輪場）需要への対応
- 2 公共交通機関との有機的な連携の検討 について
 - (1) 公共交通の現状
 - (2) バス交通の利用環境の改善に向けて
 - (3) 公共交通利用者等への情報発信
 - (4) 中心市街地全体での公共交通機関との有機的な連携

中心市街地への効果

○周辺とのつながり・動線

- ・交通の結節点である近鉄四日市駅とJR四日市駅の中間に、気軽に訪れて滞在できる拠点を設けることで、中心市街地に人を呼び込むきっかけとなる。
- ・中央通りの歩道・緑地帯、三滝通り、北側広場などの市役所周りの街路空間とのつながりを考慮し、周辺との動線を確保することで、人の流れが生まれる。
- ・まつり等イベントとの連携、イベント時における一体的な利用が可能になる。

○公共交通等のアクセス

- ・公共交通の利便性を改善することで、市内外から中心市街地に訪れやすくなる。
- ・中心市街地を巡回するループバスの導入を検討し、中心市街地内でのアクセス性を高める。ループバスの検討にあたっては、自動運転車両の導入も視野に入れる。

○民間駐車場の活用（中心市街地への波及効果）

○景観・眺望

- ・中央通りや三滝通りに面した角地としての優位性を活かし、視認性の高いランドマークとなることで、中心市街地に訪れやすくなる。
- ・都市景観と調和したデザインとすることで、都市イメージの向上に資する。
- ・施設の上層階からの眺望を確保することにより、街並みや四日市港・伊勢湾を一望できることが誘客の一つの要素となるとともに、来館者のぐつろぎの場となる。

○災害時における避難施設としての役割

○環境面での対応（環境負荷低減など）